

# 「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当:斎藤登美夫



◇◆◇ No.0502 ◇◆◇

18/09/26

## 【ドル/円は一時113円台を記録、迫る「トランプ・シーリング」】

ドル/円相場は、定着こそならなかったが本26日に一時113.03円まで上昇した。ここから先のテクニカルな上値メドは取り敢えず7月高値の113.17円、年初来高値113.38円などとなるが、ここまでが史上最低の「年間変動率」にとどまっていることもあり、さらなるドル高・円安を予想する声も少なくない。しかし、やや気になるのは日米貿易問題で、それと絡めたいわゆる「トランプ・シーリング」の行方も気に掛かる。以下では、トランプ発言を参考に、米国の為替スタンスについて、いま一度レポートしてみたい。

### ◎前回、今年7月は113円乗せでトランプ氏が「口先介入」

筆者は、過去に2度ほど、具体的には昨年10月25日付や今年7月18日付の当レターで、「ドル高シーリング」についてレポートしている。詳細はそれぞれバックナンバーを参考にされたいが、前者では「115円」、後者は「113円ぐらいから要注意」と指摘していた。

いわゆる「ドル高シーリング」に関して、もっとも有名なものといえば1993年1月、当時のクリントン政権で財務長官を務めたベンツェン氏による「ベンツェン・シーリング」か。具体的には113.60円がそれにあたる。そんなベンツェン・シーリングから、すでに25年も経過し、当時とファンダメンタルズも違えば金利水準も異なる。もちろん、政権そのものも異なるわけだが、何故か当時に近い113円レベルから、米国発の「キナ臭い」動きがたびたび観測されており、とても偶然だとは思えない。やはり、「113円レベル」というのは、いまでも何か特別な存在なのだろうか!?

以下で、トランプ氏の大統領就任後、自身が発したコメントとあわせ、実例を3つ取り上げてみる。

#### ①;「中国や日本は何年も通貨安誘導を繰り返している」

トランプ氏が大統領に就任した直後、2017年1月31日に米企業幹部との会合で発したコメントとされている。これに対し、安倍首相は翌2月1日の衆院予算委で、「2011年以降、円売り介入を行っていない」と発言し、大統領の発言は事実誤認と反論していた。ちなみに、先の米大統領発言が聞かれた際のドル/円は、113円半ばから後半。そして発言を受けて、112.30円レベルまで値を崩している。

#### ②;「米国には対日貿易赤字という課題がある」

2017年7月8日に実施された日米首脳会談でトランプ米大統領が初めて日米の貿易赤字について言及したと言われている。トランプ氏の指摘に対し、安部首相は麻生副総理とペンス米副大統領による「日米経済対話」でこうした点について議論する意向を示したという。会談が行われた日時は土曜日で、マーケットはお休み。ただ、前日のNYは113円台後半でクローズしているなかの発言だった。

#### ③;「強いドルは米国に不利」

CNBCは、今年の7月19日、トランプ米大統領がインタビューで、「利上げをする度に、FRBは追加利上げを望んでおり、そうした状況をさほど喜ばしいとは感じていない」と述べたうえで、「強いドルは米国を不利な立場に置く」などと指摘したと報じていた。為替市場はというと、104.58円という年初来安値を3月に記録したあとの戻り高値である113.17円を示現した、まさにその日。トランプ発言もあり、この日を境に、ドルは値を崩し、8月半ばには110円割れまで下落している。

一方、先でも指摘したように、ドル/円相場は本26日に一時的ながら113円台を回復した。つまり、危険水域である「トランプ・シーリング」が再び目前に迫っている感を否めないだろう。

もちろん、113円台にしっかり乗せたからと言って、トランプ米大統領がすぐに「口先介入」に動くかどうかはわからない。しかし、25日に日米が新貿易協定をめぐる閣僚会議を実施したことに続き、26日には日米首脳会談が行われるといった、ある種のお膳立ては出来ている。テクニカルやファンダメンタルズ、日米金利差などほとんどの要素がドル高・円安を示しているが、それを一蹴する可能性もあるトランプ発言には、やはり注意を払っておいて損はないのかもしれない。(了)

